



ゆづりは

堺市立図書館だより

第19巻 第4号 (通巻73号)

発行日 令和7年3月11日

編集・発行 堺市立中央図書館

〒590-0801 堺市堺区大仙中町18-1

電話 072(244)3811

FAX 072(244)3321

<https://web.d-library.jp/SKI01/g0102/libcontents/search/?gid=1025>



▲電子版

堺市こども読書活動推進計画 つながる・ひろがる 堺っ子読書活動 (令和7年度改定版) を策定しました

本市では平成31年2月に策定した「堺市子ども読書活動推進計画 つながる・ひろがる 堺っ子読書活動」を基に、家庭、地域、市立図書館、学校などが連携・協働し、子どもの読書活動を推進してきました。

近年、子どもを取り巻く生活環境が大きく変化し、価値観が多様化する中、社会状況の変化に向き合い、柔軟に対応する力や様々な情報を見極める力、多様な人々と協働する力などが求められています。こうした力を育む上で、読書活動の推進は非常に重要です。子どもに「人生をより深く生きる力」を身に付けてもらうため、令和7年2月に計画を改定しました。

改定にあたって、ご尽力いただきました懇話会委員の方々や堺っ子読書サミット^{*}に参加してくれた子どもたち、パブリックコメントにてご意見をお寄せいただいた方など、ご協力くださいました皆様に感謝申し上げます。



＜堺っ子読書サミットの様子＞

* 堀っ子読書サミット

子ども司書を中心に小学4年生から中学3年生までを対象として、令和6年7月27日に、読書や図書館利用について意見を聞く場として開催。

これまでの取組を継続しつつ、前計画の成果と課題を踏まえ、全ての子どもの豊かな心と人生をより深く主体的に生きる力を育成し、未来を創り上げる人材を地域全体で育むことができるよう、子どもの読書活動の更なる推進を図ります。

また、全ての子どもの発達段階に応じた体系的な取組を円滑に推進するためには、地域の皆様方や学校などとの連携・協働が重要となります。今後ともご協力をお願いいたします。



「堺市こども読書活動推進計画
つながる・ひろがる 堺っ子読書活動（令和7年度
改定版）」は、ホームページに掲載しています。

(中央図書館 企画情報係担当)

目次

- ・堺市こども読書活動推進計画 つながる・ひろがる 堺っ子読書活動（令和7年度改定版）を策定しました … 1
- ・この本で解決！ 「自由研究のむかしと今」 … 2
- ・電子図書館にいつでも読める人気の児童書が入りました … 2
- ・シリーズ堺の〇〇 「鉄炮鍛冶屋敷」 … 3
- ・受入した地域資料のデータを公開しています … 3
- ・司書のイチ押し 『左利きの言い分』 … 4
- ・堺市立図書館電話番号一覧 … 4

ゆづりは とは ...

中央図書館の正面玄関前に、
堺生まれの詩人河井醉茗氏の歌碑があります。

年ごとに
ゆづりゆづりて
譲り葉の
ゆづりあとに
また新しく



この歌にちなみ、年月を経て、
世代を越えても、次々に新しい
情報を伝えできるように、
堺市立図書館だよりに
「ゆづりは」と名づけました。

バックナンバーは
こちらから▶





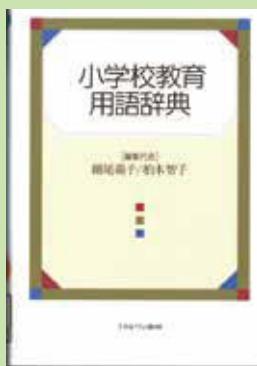
自由研究のむかしと今



図書館に寄せられた様々な質問と回答を紹介します

Q 学校で自由研究の課題が出ることがあります。ですが、自由研究はむかしから今と同じようにあったのでしょうか。

A 自由研究の起源は大正期に遡るとされ、成蹊初等学校や玉川学園初等部など一部の学校で導入されていたようです。



『小学校教育用語辞典』
細尾 明子／編集代表
ミネルヴァ書房 2021
※館内閲覧資料

教育課程上では、1947（昭和22）年版の『学習指導要領一般編（試案）』において、自由研究という「教科」が新たに設けられました。小学校では4年生以上に週2～4時間、中学校では選択科目として週1～4時間が配当されています。その目的として、「児童の個性の赴くところに従って、それを伸ばして行くことに、この時間を用いて行きたいのである」と記載されています。活動内容には研究活動、クラブ活動（音楽、書道、手芸、スポーツなど）、自治活動（当番や委員の仕事）などが含まれていました。

『新学科の導き方：社会科・家庭科・自由研究』（若狭書房）によると、体育志望が多く、特に野球が人気だったそうです。

その後、中学校では2年後の1949（昭和24）年に、

小学校でも4年後の1951（昭和26）年に教科としての自由研究は廃止されましたが、今でも夏季休業などをを利用して取り組まれることが多いようです。

現在では、「自然科学観察コンクール」や「図書館を使った調べる学習コンクール」など様々なイベントが行われています。ちなみに、本市では「堺市学校理科展覧会」を開催しています。

自由研究と聞くと小学生向けと思われるかもしれません、大人が対象の『大人のための自由研究ガチ解説』（工学社）や、教職員が対象の『校庭の雑草で探求学習や自由研究ができる本』（東京書籍）などもあります。さらに『文房具図鑑』（いろは出版）のように、自由研究をもとに出版されたケースもあります。昔から今も続く自由研究について、出版されている本は様々です。気になった一冊があれば、どうぞお手に取ってみてください。

（中図書館 レファレンス担当）

【参考文献】

- 『日本近代教育史事典』日本近代教育史事典編集委員会／編
平凡社 1971
- 『新教育学大事典』細谷 俊夫／[ほか]編 第一法規出版 1990
- 『学校教育辞典』今野 喜清／編 教育出版 2014
- 『社会科教育事典』日本社会科教育学会／編 ぎょうせい 2024
- 『学校の戦後史』木村 元／著 岩波書店 2015
- 『校庭の雑草で探求学習や自由研究ができる本』稻垣 真衣／監修 東京書籍 2024
- 『大人のための自由研究ガチ解説』I O 編集部／編集 工学社 2024
- 『文房具図鑑』山本 健太郎／絵・文 いろは出版 2016

読み放題！
順番待ち
なし

電子図書館にいつでも読める 人気の児童書が入りました

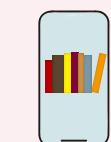


電子図書館に、読み放題方式の電子書籍が新しく入りました。

読み放題方式の電子書籍は、貸出手続きが要らず、貸出期限もありません。予約の順番を待つことなく、いつでも好きな時に読むことができます。

今回入った電子書籍は、堺っ子読書サミットで出た意見も参考にして選びました。

こどもたちに人気の「角川つばさ文庫」「集英社みらい文庫」がそれぞれ50点、一話5分で読み切れる金の星社「怪談5分間の恐怖」シリーズから25点、全部で125点です。ぜひ、ご利用ください。



▲電子図書館

（中央図書館 企画情報係担当）

シリーズ



鉄炮鍛冶屋敷



鉄炮鍛冶屋敷

堺区北旅籠町西1丁にある「鉄炮鍛冶屋敷（町家歴史館 井上関右衛門家住宅）」をご存知でしょうか？

井上家は江戸時代初期に新規参入したとされる鉄炮鍛冶です。もともとは伊予国大洲藩（現在の愛媛県大洲市など）の藩主だった加藤家の臣下で、慶長15年（1610年）、加藤家に仕えていた井上家の兄弟のうち、砲術家だった弟（通称、八兵衛）が堺に来て鉄炮鍛冶になったとされています。

承応2年（1653年）、2代目井上八兵衛は大洲2代目藩主の加藤泰興と面会し、「気ぜわしい」性格にちなみ「関右衛門」の名を賜りました。その後代々の当主は、その名を受け継ぎ井上関右衛門と名乗ります。井上家は

鉄炮鍛冶として成功をおさめ、江戸時代後期には鉄炮鍛冶仲間内で最多となる61家の大名や旗本と取引を行いました。

明治期になると兵器を集約するため、武器としての鉄砲の製造は主に政府が行うようになります。

井上家では獵銃を製造するとともに、刃物や醤油などの商いも行つていました。



引札（中央図書館所蔵）



引札（中央図書館所蔵）

中央図書館で所蔵している引札には「獵銃製造火薬類諸金物 打刃物販売處」と書かれているとおり、鉄砲以外にも商っていたことが分かります。

井上家の家屋は現在も残っており、平成16年（2004年）に主屋が、平成30年（2018年）には敷地とすべての建物が堺市指定有形文化財に指定されました。建物は所有者の方のご厚志により本市に寄贈され、保存修理工事の後、昨年の3月3日から一般公開されています。江戸時代の鉄炮鍛冶の生産現場と住宅がともに残されている国内唯一の建物です。ぜひ訪れてみてください。

引札は堺市立図書館地域資料デジタルアーカイブで閲覧可能です。



鉄炮鍛冶屋敷の開館日については堺市立町家歴史館のHPをご確認ください。



【参考資料】

- 『堺市指定有形文化財井上関右衛門家住宅（鉄炮鍛冶屋敷）保存修理工事報告書』堺市歴史遺産活用部文化財課／編集 堀市歴史遺産活用部文化財課 2024
- 産経新聞「堺の鉄砲ビジネス語り継ぐ 江戸時代の息遣い感じる鉄砲鍛冶屋敷」2024年6月8日 大阪朝刊
- 『堺鉄砲鍛冶屋敷井上関右衛門家資料調査報告書』堺市 2021

（中央図書館 地域資料担当）

受入れた地域資料のデータを公開しています

堺・大阪に関する出版物などを地域資料として収集し、2か月に1度「地域資料受入リスト」を図書館ホームページで公開しています。図書や歴史資料だけでなく、行政資料や地図、パンフレット、絵葉書、写真なども収集しています。

堺に関する資料、堺の人・団体の作られた資料がありましたら、ぜひご寄贈ください。（資料の取り扱いは図書館にご一任いただきます。）

（中央図書館 地域資料担当）



司書のイチ押し



『左利きの言い分』

大路 直哉／著 PHP 研究所

「あ、左利きなんや」

そう、私は左利き。母が右手に物を渡してもかたくなに左手に持ち替えていたため、「使うならそれでいいか」とあきらめられたという、食べるも書くも左で行う生粋の左利きです。あまりにも初対面の時に指摘されることが多いので、それなりの付き合いがある人に改めて言われると「いまさら？」と返してしまいます。仕事をしていくとも言われます。例えば、誰かの前で文字を書く。すると「左で器用に文字を書くね」と言われます。いいえ、私からしたらあなた方が右手で器用に文字を書いているのです。【左利き】って別にすごいことではない。左手を使うのが好きだっただけ。たまたま左で道具を使うのが得意だっただけなのです。



『左利きの言い分』
大路直哉／著
PHP研究所 2023

本書はそんな左利きについて書かれています。左利きの歴史から「左利きにやさしい社会をめざそう！」といった内容。はて。左利きにやさしい社会とは？もちろん左利きの著者は、世の中が右利き社会だといいます。それはそう。私も感じていますとも。グローバルスタンダード

な右利きと比べれば、左利きはずいぶん生きにくい。右利き社会の例として、本書の55ページに1998年時点の「左手では使いにくいもの」がいくつか挙げられており、その一つに「自動改札機」があります。切符投入口やタッチする部分は右側だからです。ちなみに私は定期券を左手に持つ、クロスさせながら

毎日出勤しています。

左利きになった理由も様々です。私のようにともと左利きの人もいれば、事故で欠損、脳卒中で麻痺が残って使えないなどの理由で左手を使うことになる人もいます。このことを知ると、マイノリティだから考えなくていい、という風には到底思えません。どちらかの手では使いにくい、なんてことはないほうがいいと思いませんか。この右利き社会問題、簡単に見て実は奥深い。マイノリティに対して、どう知っていくのか、どう向き合うのか。これは一番想像にたやすい多様性の問題ではないでしょうか。何を大げさに、と思うかもしれません、どうか一度考えてみてください。このようなマイノリティ側の主張をマジョリティに属する人達が、少しでも考え、そして、そんなこともあるかと理解したり、こうすればどちらにも良いかなと思ったりしてくれることが大変ありがたいのです。スープのレードルなんて最たるもの。初めて作った人が、左利きの人を少しでも気にかけていれば、最初から両方に注ぎ口があったはずですから。

先ほど出てきた自動改札機ですが、スマートウォッチにICカードの機能を入れている右利きの人は、時計を左手につける方が多いので左利きの人と同じように腕をクロスして通っているそうです。そんなこと、初めて気がついたなあ。立場が違うとこうも気付けなくなることに改めて考えさせられます。そんな違う立場への気付きの1冊としておすすめさせていただきます。ぜひ皆さんにも聞いてほしい。読んでほしい。

私たち『左利きの言い分』を。

(E・O)

堺市立図書館電話番号一覧

中央図書館	244-3811	西図書館	271-2032
移動図書館	244-3811	南図書館	294-0123
堺市駅前分館	222-0140	梅分館	296-0025
中図書館	270-8140	美木多分館	296-2111
東百舌鳥分館	234-9600	北図書館	258-6850
東図書館	235-1345	美原図書館	369-1166
初芝分館	286-0071		

人権ふれあいセンター鶴松人権歴史館	245-2534
人権資料・図書室	245-2534
青少年センター図書室	228-6331
図書館カウンター堺東	232-1011



▲図書館 HP

<https://www.city.sakai.lg.jp/kosodate/library/>